

仙台城別称:青葉城

慶長6年(1601)4月から千代の青葉山に築城を開始、千代の地名を中国の故事にちなんで仙台と改めた。伊達政宗はその建増され銀万石の本守となるが、本丸には天守こそ設けなかった。



第2640地区 和歌山東南ロータリークラブ

WEEKLY NEWS 2009-2010

通算 1879回

週報



10号

例会日: 水曜日

第1・第2 夜間・18:30~

第3・第4・第5 昼間・12:30~

例会場: 華月殿 和歌山市屋形町 2-10

事務局: 〒640-8215 和歌山市橋丁 23

サイバ-リンクス N-4ビル 2階

TEL 073-423-3666 FAX 073-423-7200

http://www3.cypress.ne.jp/tonan-rotary.html

E-mail a-rotary@coral.cypress.ne.jp

会長 竹中昭美 幹事 中岡隆文

クラブ会報委員長 和田達男 副委員長 籠田 弘



本年度地区バッジ(伊藤)

本日の例会

9月16日(水)

12:30~華月殿

ロータリーソング: それでこそロータリー

行事: 外部卓話 社会奉仕委員会

「東南海・南海地震とその防災対策について」

県総合防災課 総括課長補佐 小松太賀雄様

次回の例会

9月30日(水)

12:30~華月殿

行事: IDM発表①

ロータリー情報・規定委員会

先週例会報告

ゲスト: 向陽中学・高等学校 校長 板橋孝志様

会場監督 奥村 智子

会長挨拶

竹中昭美会長

皆様今晚は、山田様ご入会おめでとうございます。一緒に奉仕活動を実践すると共にロータリーを楽しみましょう。

本日は、向陽中学、高校の板橋校長様にお越しいたき有難うございます。後ほど卓話をよろしくお願いたします。

8月26日クラブ協議会、9月4日和歌山中ロータリークラブとの合同例会で村上ガバナーの公式訪問の際は、お忙しい中たくさんの方々にご出席いただき有難うございました。村上ガバナーから、ご指導又アドバイスを受けましたこと前向きに取り組んでまいりたいと思っております。

さて、今月は、新世代のための月間です。インターアクトは14歳から18歳、ローターアクトは18歳から30歳、年齢30歳までの若い人を新世代といえます。すべてのクラブと地区は、新世代の基本的ニーズを支援するプロジェクトに着手するよう奨励されています。基本的ニーズとは、健康、人間の価値、教育、自己開発であります。尚、ロータリーには、『各ロータリアンは、青少年の模範』という標語があります。ロータリアンが青少年の模範であり、青少年がロータリアンの背中をみて育てば、日本の将来は何の心配もないと思います。特に和歌山東南ロータリーの皆様方は青少年の模範にかなう素晴らしい方々ばかりです。いつも青少年の模範でいる気持ちを忘れずにいたいものです。

ニコニコ箱

平 平治会計

竹中君・板橋校長、本日卓話よろしくお願申し上げます。中岡君・板橋校長先生、本日の卓話よろしくお願いたします。駒阪君・板橋校長先生、卓話宜しくお願いたします。本人お誕生日お祝い・中村君。配偶者お誕生日お祝い・前田君、奥村(博)、郷間君。

40周年記念BOX

辻本君・涼しくなりました。IDM A班・残金を作りました。

幹事報告

中岡隆文幹事

1. 旭学園より旭子ども祭りの案内が届いています。日時: 9月19日14時から17時です。
2. 南会員を団長とするGSEの7150地区(アフリカ)訪問に際し、交換用のパナが事務局に少なく作成が間に合いません。3枚程度足りません。お手持ちの方はご協力をお願いします。
3. 和歌山弁護士会より、足利事件の菅家利和様をお招きして『こうして私の17年半は奪われた』の公演案内が届いています。日時: 9月24日18:00からです。パンフレットを配布させていただいています。
4. JCよりJCNEWSが届いています。回覧させていただきます。
5. 次週例会終了後、定例理事会を開催します。

米山記念奨学会

竹中君・中谷伸家会員・敬子会員 素敵なプレゼントありがとうございます。一生大切にさせていただきます。南君・竹中会長・委員の皆様、先日は有難うございました。

東南育英会

稲葉君・向陽中・高校、板橋校長をお迎えして。

9月お誕生日の皆様

おめでとうございます。



新入会員

山田さち子様
皆様、よろしくお願いたします。



＜向陽中・高等学校の現況から＞
向陽中学・高等学校 校長 板橋孝志様

	ニコニコ	米山奨学金	ローリー財団	東南青英会	40周年記念BOX
累計	769,000	84,000	68,000	15,000	280,000



ご紹介頂きました向陽中学・高等学校校長の板橋です。この4月に着任しました。よろしくお願いいたします。皆様には、平素から本校教育への深いご理解とご協力をいただき、特に、奨学金給付等を通して力強いご支援を賜っております。高いところからですが心からお礼申し上げます。また、このたびは、この例会で、本校の取組概要等についてご紹介する機会を与えていただき、誠にありがとうございます。

出席報告			出席者	出席率
会員総数	46名	9/9	35名	79.55%
出席免除会員	2名	8/26	38名	88.37%

まず、本校の生徒数や学科編成等についてご説明いたします。

- 中学校 …各学年2クラス×3学年=6クラス (240人)。この内、和歌山市内の小学校出身者は約6割。
- 高等学校…各学年8クラス×3学年=24クラス(949人)で、学科別内訳は、普通科5クラス、環境科学科2クラス、文化科学科1クラス内、和歌山市在住は約6割。

向陽中学校は、本県初の県立の併設型中高一貫校として6年前に設立されました。今年度、第一期生が高校3年生となり、完成年度を迎えたところです。現在、県内には、同じような中高一貫校は、橋本、桐蔭、日高、田辺高校に設置されていますが、本校1校だけの頃は、定員80人の10倍を超える応募がありました。5校となった今も、競争率は約5倍、5校中最も多くの応募をいただいております。入学者の選考は、県立の中学での学力テストは好ましくないことから、適性検査や作文、面接などをによって行っています。生徒は原則として向陽高校の環境科学科に進学しますが、入試を受ける必要はありません。6年間を見通した教育課程の中で、早期から一人ひとりの個性を最大限に伸ばすことをねらいとしています。他科に比べ、学業成績の幅は広いものの、実に多様な個性(才能)をもった生徒が集まって生き生きと学んでいます。生徒本人及び保護者の満足度は極めて高いです。

さて、今説明いたしました新設の中学校を含め、皆様の「向陽」へのイメージは、どんなものでしょうか。私自身が感じている「向陽」の特色や良さをPRさせていただきますので、既存イメージと比較し、必要があれば修正していただければ有り難いと思っています。

第一に、揺るぎない伝統と実績を持つということ。世評も内実もこの点は当たっていると思います。進路は、殆ど全員が進学。国公立大学を希望する生徒が約8割。この内、それを実現している者は約5割。人数では、例年130～140人となります。大学以外では、看護系の専修学校に20人程度が進学します。こうした実績や信頼を支えてきたものは何なのか。それは、①優れた資質を持つ個性豊かな子どもたちと熱意ある教職員との深いかかわり、②改革への弛まぬ努力ときめ細かく周到なマネジメント だと思います。例えば、3学期から2学期制への移行、1日70分5限の授業、夏季休業日の短縮などにより、県内ではおそらく、最も多くの授業時数を確保している学校です。このほか、週齢テスト、スーパーサイエンス研究指定校、併設型中高一貫校、昨年度からの始めた土曜講座など、考えられる手だては殆ど全て実行に移しており、完成度の高い教育システムが機能していると言って良いと思います。

第二に、「文武両道」を中心とする全人教育が、幅広くかつ力強く実践されているということ。

○部活動参加生徒…体育クラブ：19クラブに488人、文化クラブ：23クラブに503人 計991名が登録、部活参加率9割（実活動者もほぼ9割）。

○全国大会参加クラブ…バドミントン部、少林寺、空手 水泳、物理部、囲碁、放送部(H21・9現在)

このほか、硬式野球部の春季優勝(秋季は、9月9日現在ベスト4進出中)、部員100人を擁するプラスバンドの県大会金賞を含め、近畿大会等への出場を含めるとキリがありません。部活動における例年のこうした素晴らしい成績は、向陽の誇るべきもう一つの伝統として脈々と息づいています。私は、今年の入学式で、「受験勉強だけの高校生活は哀しすぎる。『文武両道』を、力強く進めていきたい」と訴えました。中には、学業との両立にアップアップする生徒も見られますが、極めて高いレベルで見事に両立する生徒も決して少なくありません。向陽の生徒たちは頗る元気です。学校は活気に満ちています。

第三に、古き良き時代の学園を思わせるほんのりとあたたかい雰囲気があること。都会の進学校にありがちなぎすぎすした窮屈さがなく、どことなく牧歌的な温かさや優しさがあります。これは、和歌山市に位置しながら、どこかに田舎らしさが残す地元の風土があるからかも知れません。そしてもう一つ、本校の多彩でボリューム豊かな学校行事とそれによる集団づくりを忘れてはならないと思います。多くの学校は、学校週6日制から5日制への移行に伴って、学校行事を相当に減らしました。しかし、向陽は全く減らしておりません。丸1日かけて行う体育大会の予行、力の限りを尽くす本番。創意溢れる文化祭、素晴らしい盛り上がりを見せる年2回のグスマッチ、芸術鑑賞、新入生歓迎会などなど。これらを通して、集団に心が通い、次第にまとまり、質の高い集団と帰属意識が育まれていく。加えて、教職員の面倒見の良さ・温かさや高い指導力。これらが背景にあって、あたたかい校風が守られているように思います。

課題としては、社会性やコミュニケーション力に乏しいなどといった若者世代に共通する問題や、優等生を演じることに疲れたり、反抗期を経験しないままどこかにひ弱さを抱えていたりするといった生徒が、若干見られることを挙げなければなりません。こうした課題を克服するためにも、あいさつや声かけといった日常の平易な取組を一体となって進めながら、素晴らしい本物の世界を体で実感できる場を拡充して、より自律した学びを促し、受験学力だけでなく本当の学力を育てたい、同時に、良識あるしっかりとした言動のとれる若者を育てたいと思っています。本校の生徒はまだ大きな可能性を秘めています。皆様方のお力添えをいただきながら、その実現に精一杯頑張りますので、今後ともどうかよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。